

スペクトラム管理委員会第 22 回会合議事概要（案）

1 開催日時

平成 22 年 9 月 7 日（火）14：30～16：10

2 場所

三田共用会議所 4 階 第 4 特別会議室

3 出席者（敬称略）

・ 専門委員：

門脇 直人、岩間 美樹、工藤 俊一郎、小坂 克彦、田村 知子、入江 恵、
正村 達郎

・ 関係者：

加保 貴奈、藤咲 友宏、中津川 征士、土田 健一、高田 仁、内野 政治、
加藤 敏、亀谷 収、大内 三郎、倉島 俊樹、黒森 博志、河野 健司、小林
秀明、杉山 直樹、須田 良久、高尾 浩平、中村 隆治、浜名 康広、三留 隆
宏、三浦 望、服部 光男

・ 事務局：

本間室長、川崎補佐、岩元係長、杉山官（国際周波数政策室）
高橋補佐（電波環境課）、佐藤補佐（監視管理室）、中村官（移動通信課）

4 議事

- 1 SG1及びWP1C会合（平成 21 年 9 月）並びにSG1 WP1A及び1B会合（平成 22 年 6 月）の結果について
- 2 SG1及びWP1C会合への対応について
 - (1) 提出予定日本寄与文書（案）の審議
 - (2) 外国入力文書に関する審議
- 3 その他

5 議事概要

(1) 前回議事概要

資料 22-1 の第 21 回スペクトラム管理委員会の議事概要について、後ほど各位確認することとし、コメントがある場合は 9 月 9 日（木）15 時までに事務局に提出することとされた。

(2) SG1 及び WP1C 会合（2009 年 9 月）並びに WP1A 及び WP1B 会合（2010 年 6 月）の結果について

2009 年 9 月に開催された WP1C 会合の報告について、資料 22-3 に基づき三菱総合研究所鈴木氏から説明が行われた。また、2009 年 9 月に開催された SG1 会合並びに本年 6 月に開催された WP1A 及び WP1B 会合の報告について、資料 22-2、

22-4 及び 22-5 に基づき、国際周波数政策室の岩元より説明が行われた。その後、以下のとおり質疑が行われた。

■SG1 及び WP1C 会合（2009 年 9 月）並びに WP1A 及び WP1B 会合（2010 年 6 月）の結果について

- （小坂）WP1C に関して、測定の関係のものが多い。CISPR との議論はあるか。
- （鈴木）CISPR との関係を議論する場は無かった。
- （小坂）SRD や PLT に関する測定に関して、WP1A 及び WP1B の作業と重複があるのではないか。
- （鈴木）重複する部分はあるが、インタラクションを起こすような議論は無かった。
- （小坂）WP1A 報告書の 9 ページの議題 1.6 に関して、メソッド B は、RR に新たな脚注 5.566 号を追加するのか。
- （岩元）そうである。
- （NHK 土田）WP1A 報告書の 5 ページ目の「今回、放送業界から周波数範囲を 80MHz 以下から 30MHz 以下に限定して勧告化することが提案され、受け入れられた。」という記述に関して、具体的な議論の経過を教えて欲しい。また、「1.1.5 ITU-T SG15 との Joint 会合および他の標準化機関との今後の進め方について」に関して、G.9960 の周波数の上限が、200MHz から 80MHz に変更されたとあるが、この点に関しては如何か。
- （小坂）80MHz へ変更を決定するためには、ITU-T で承認される必要がある。本件に関しては、G.9960 で周波数の上限が 200MHz まで延びたことが問題視され、ジョイントミーティングが開催されたところ。現時点の勧告では 200MHz と書いてあるが、ITU-T での承認が無い限り 80MHz に変わったとは見なせない。
- （岩間）WP1C 報告書の 8 ページ目の Question230/1 に関して、もともとの課題に 2012 年に終了すべきとあるが、現在、コレスポンディンググループが開催されている状況である。進捗状況に関して、教えて欲しい。
- （岩元）後ほど確認してお知らせする。

(3) SG1 及び WP1C 会合の概要について

2010 年 9 月に開催される SG1 及び WP1C 会合の概要について、資料 22-6 に基づき、国際周波数政策室の川崎より説明が行われた。

(4) SG1 及び WP1C 会合の対処について

2010 年 9 月に開催される SG1 及び WP1C 会合への対処（資料 22-7）について、国際周波数政策室の川崎より、説明が行われた。

(5) SG1 及び WP1C 会合への提出寄与文書について

2010年9月に開催されるWP1C会合への寄与文書3件（資料22-8-1、2及び3）に関し、資料22-8-1については監視管理室の佐藤より、資料22-8-2及び3についてはNTTアドバンステクノロジーの服部氏よりそれぞれ説明が行われた。

各文書の説明後、それぞれの寄与文書について、以下のとおり質疑が行われた。質疑の結果、資料22-6-1、2及び3に関しては、修正の上、日本寄与文書として提出することが了承された。なお、修正に関しては、事務局に一任された。

■各提出寄与文書について

（小坂）22-8-1に関して、WP1C報告書によると、本課題は勧告化を目指しているものと記述されている。本件寄書は、レポートを目指しているので、食い違いがある。

（佐藤）本件は、レポートの作成を目指すものである。WP1C報告書の記述が誤りであるので、訂正したい。

（岩間）ITU-R SM.1753に関しては、前回会合で暫定改訂案が作成されたところである。改訂案が作成された直後のこのタイミングで寄書を提出するのは適切か。

（服部）今回は、詳細部分の提案であり、すぐに勧告の修正手続きにはならないと思う。次回以降の修正に反映できるよう、寄書を入力するものである。

（小坂）22-8-2及び22-8-3に関して、勧告の修正提案であることをはっきりと述べる題名（working document toward ~）にした方が良い。

（服部）了知。

（7） 外国寄与文書への対処について

2010年9月に開催されるSG1及びWP1C会合への外国寄与文書について、資料22-9に基づき、国際周波数政策室の川崎より説明が行われ、個別事項に関しては、それぞれ担当課から説明がなされた。

外国寄与文書への対処について、了承された。

（8） その他

提出予定の寄与文書（案）について、特段のコメントがある場合は、9月9日（木）15時までに事務局まで連絡いただきたい旨、案内があった。

参考資料1及び2のスペクトラム管理委員会専門委員及び関係者名簿について、所属、連絡先等に変更がある場合には、適宜事務局まで連絡することとなった。